

令和 4 年度 富士見小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

1 基本目標

心豊かで健やかな体を持ち、創造性豊かに自ら学び自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよい社会の発展を目指して、たくましく生きる児童の育成を目指す。

2 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- 心豊かで、思いやりのある子ども（心豊かな子）
- よく学び、工夫する子ども（よく学ぶ子）
- 健康で、たくましい子ども（たくましい子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童と教職員の望ましい人間関係を基盤に、確かな児童理解に裏打ちされた、一人一人のよさや強みをほめて伸ばす指導を通して、児童の多様な個性・能力を最大限に伸長する。また、支え合い高め合える集団を形成して、すべての児童が自信と誇りの持てる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

教育目標の具現化を図り、教職員が丸となって居がいと活力のある学校づくりに努める。

1 認め励ます指導を基本とした心の教育の推進

- （1）自己有用感、規範意識、他者を思いやる心の育成及び組織的な指導体制
- （2）道徳教育を核に、教育活動全体を通した豊かな心やたくましい心の涵養

2 基礎・基本な確実な習得と主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

- （1）「見方・考え方」を働かせる教師のコーディネートによる主体的・対話的で深い学びの推進
- （2）ICT 環境の有効活用等を通した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実

3 健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

- （1）教科体育、元気っ子チャレンジや各種検定、食育等の校内共通した取組の充実
- （2）危険を予知し、自らの命を守り抜くための判断力や行動力の育成

4 教職員の資質・能力の向上と働き方に関する改善

- （1）協働的な同僚性による校内研修や教職員どうしの学び合いの充実
- （2）全教職員が協働した業務の適正化によるワークライフバランスを意識した働き方の推進

5 地域とともにある学校づくりの推進

- （1）地域の教育資源を生かした教育活動の展開と家庭・地域と連携した学びの実践
- （2）学校園における小中の連携と、義務教育 9 年間を一体とした指導の推進

【宮の原地域学校園教育ビジョン】

「心豊かで輝く子どもの育成 ～ほめて伸ばす(自己肯定感を高める)～」

4 教育課程編成の方針

- ・ 新学習指導要領をはじめとして、関係法令、国、県、市の方針や重点及び本校の実情や課題を踏まえ、教育目標の具現化を目指した教育課程を編成する。
- ・ 教育活動全般の見直しを不断に行い、児童と向き合う時間の確保に努める、

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】 ○ 確かな児童理解に裏打ちされた、一人一人のよさや強みをほめて伸ばす指導の充実 ・ 校内の業務の適正化や ICT 環境の有効活用を通じた学校における業務改善の推進 【学習指導】 ○ 自分の思いや考えを表現し、学び合う児童の育成 ～自分の考えを広げ深めることのできる授業づくりを通して～ 【児童生徒指導】 ○ よりよい生活集団づくりを通じた、規範意識と自己有用感の育成 【健康（体力・保健・食・安全）】 ○ 体力の向上を目指して運動に親しみ、健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成
--

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 85%	①一人一人が自由に発言できるような学習集団作りに努めるとともに、ねらいを達成させるための適切な学習形態を工夫し、考えや表現を広め深める対話的活動を設定することで、コミュニケーション力を育成する。 ②課題の提示や教材の工夫をし、さらに主体的に学習に取り組めるようにする。 ③教育課程の円滑な実施のため、主体的、対話的で深い学びについての実践研究を行う。	B	【達成状況】 教職員 100% 保護者 94.2% 児童 97.8% ・「みんなのやくそく（学習編）」の共通理解のもと、落ち着いて授業が進められた。児童は、めあてに向かって一生懸命に学んでいた。 ・課題の提示や教材の工夫をしたことにより、児童は自分の思いや考えを表現したり、学び合いながら、考えを広げ、深めようとしていた。 【次年度の方針】 ・教師のコーディネート力を高めることにより、児童の主体的、対話的で深い学びに向かう授業づくりに努める。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 教職員 85%	①体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ②児童会や清掃における縦割り班活動等を通して、相手の立場を考えた思いやりの心を育む。	B	【達成状況】 教職員 97.3% 保護者 95.0% 地域住民 100% 児童 94.7% ・アンケートの結果は、教職員・児童は昨年度と比べて下回ったが、目標値を上回った。 ・児童会や清掃における縦割り班活動の機会が感染症対策のために減ってしまったが、まごころカードや道徳科の授業、人権教育を通じて思いやりの心を育んできた。 【次年度の方針】 ・まごころカードや帰りの会での友達のよさを伝える活動を通し、認められる機会を多く設定したり、道徳科の授業や人権教育、縦割り班活動を通じて他者の良さに目を向けたり、思いやり助け合える児童の育成に努める。

児 童 の 姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 教職員 90%	①児童の規範意識を高め、皆が安心・安全な学校生活を送れるよう、「<u>みんなのやくそく（生活編）</u>」や教師による生活当番活動による<u>日常の生活指導の充実</u>を図り、職員が同一歩調で組織的・継続的な指導を行う。 ②道徳科の授業などを通して、児童がルールやマナーの意味や必要性について理解を深め、生活の中での実践力を育成する。 ③保護者との連携・協力を図り、児童理解に基づく個に応じた適切な対応に努める。	B 【達成状況】 教職員 97.3% 保護者 94.5% 地域住民 100% 児童 93.0% ・「みんなのやくそく（生活編）」を中心に、学校生活で必要なルールやマナーについて教職員が共通理解を図り、同一歩調で継続的に指導に当たるなど、学校全体で規範意識の向上に取り組んだ。「みんなのやくそく（生活編）」をスタンダードダイアリーに貼り、スムーズにルールの確認ができるようにした。 ・本年度は、全校集会などで全体での生活指導を行うことができなかったため、放送を通じて全校に呼び掛けることで指導の徹底を図った。 ・生活当番に当たっている教員が、そのときの児童の実態に応じた生活目標を設定し、全校に周知することで、学校全体で課題意識をもって生活態度を見直すことができるようにした。 【次年度の方針】 ・規範意識を高め、児童が安心・安全な学校生活を送れるように、「みんなのやくそく（生活編）」と職員の共通理解を基盤とした枠組みの中で、継続的な指導を行う。 ・道徳科の授業などを通して、ルールやマナーの意味や必要性について理解を深められるようにする。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 教職員 85%	①あいさつの大切さについて啓発したり、教職員が積極的に児童にあいさつをしたりすることで校内外でのあいさつの習慣が十分に身に付くよう指導する。 ②あいさつボランティアや委員会活動、学級での日常生活など様々な機会を通じてあいさつの推進を行い、あいさつの習慣化を図る。 ③よりよいあいさつや返事の仕方、言葉づかいについて日常の指導の徹底を図る。 ④<u>宮の原地域学校園全体であいさつ運動を実施する。</u>	B 【達成状況】 教職員 91.9% 保護者 87.8% 地域住民 100% 児童 96.0% ・本年度は、感染症対策のため、あいさつ運動を実施することができなかった。 ・様々な場面であいさつの大切さを指導したり、教員が積極的に児童にあいさつをしたりしたことで、校内でのあいさつの習慣はよく身に付いている。 ・校外でも進んであいさつができるように、登校指導で児童への声掛けを行った。 ・宮の原地域学校園全体でのあいさつ運動を実施することで、児童へのあいさつの啓発を行った。 【次年度の方針】 ・児童があいさつの意義を十分に理解し、あいさつの習慣が身に付くよう、学級や学年を中心として、発達段階に応じた指導を継続していく。 ・新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、児童を主体とするあいさつ運動などの活動を推進していく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童 85%	①授業や各種検定等において、児童が主体的に目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ②道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。	B 【達成状況】 教職員 94.6% 保護者 79.5% 児童 91.9% ・授業や学期ごとにめあての設定や振り返りを行ったり、運動会などの行事のめあてをもたせたりして、目標に向かって努力している児童を認め励ます指導に努めた。 【次年度の方針】 ・全ての教育活動において、児童が主体的に目標に向かって取り組めるよう仕組んでいく。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 教職員 85%	①運動委員会を中心に元気っ子チャレンジや各種検定に挑戦する場を設定し、目標をもって積極的に運動を実施することで、体力向上への意欲を高める。 ②「安全に・衛生的に」の共通理解を徹底するとともに、毎日の給食指導を着実に実施したり、給食週間の取組の中で好き嫌いと栄養のバランスについての指導を行ったりする。 ③危機を予測し自らの命を守り抜く判断力・行動力の育成に向けて、日常指導における安全指導の充実と、交通安全教室、避難訓練等の計画的な実施をする。	B 【達成状況】 教職員 100% 保護者 93.3% 地域住民 100% 児童 96.5% ・感染症の影響により、密を避けながら元気っ子チャレンジや検定への参加は可能な範囲で行い、運動に親しむことができた。 ・「安全に・衛生的に」の共通理解を徹底することで、給食の配膳の仕方や会食の方法に制限があったが、安全に・衛生的に給食の時間を過ごす意識が高まった。また、給食週間の取組の中で、動画による食事のマナーの指導を行った。 ・感染症の影響により室内で過ごすことが増えたので、各学級において安全に気を付けて生活する意識をもたせる指導を行った。 【次年度の方針】 ・体育科の授業において、コロナ禍でも活動量が確保できる展開を工夫し、体力の向上に努める。 ・昨年度に引き続き、日々の給食指導において、特に「安全に・衛生的に」の共通理解を徹底し、実施する。 ・感染症の影響で、校庭割り当ての関係から、室内で過ごす時間が増える。そのため、引き続き、各学級での安全指導を徹底する。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】児童 85% 【再掲A 5】	①児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ②宮・キャリア・パスポートの活用を図る。	B 【達成状況】 教職員 94.6% 保護者 79.5% 児童 91.9% ・係や委員会活動、学校行事等において児童に目標をもって取り組ませ、児童一人一人のよさや責任をもって取り組むことの大切さに気付くことができるよう継続的な支援に努めた。 【次年度の方針】 ・宮・未来キャリア・パスポートを活用しながら、夢を抱いてやり抜く児童の育成を目指していく。 ・係活動や委員会活動を通して、より主体的自治的な活動ができるよう支援に努めていく。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】児童 85%	①相手意識や目的意識を大切にしたい外国語活動の授業を通して、英語で伝え合う楽しさを感じ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②打ち合わせを綿密に行うことでALTとの連携を充実させるとともに、外国語専科による授業を行うことで、児童の興味・関心を喚起させる授業づくりに努める。	B 【達成状況】 教職員 97.3% 児童 95.9% ・相手意識や目的意識をもって積極的にコミュニケーションを図ろうとしていた。 ・ALTと外国語専科が話す英語をたくさん聞くことで、英語の音声に慣れ親しみ、児童が楽しく授業に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・英語をより主体的に使う、会話がするような授業づくりに努める。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】児童 85%	①生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や校外学習等において、学習内容と関連させながら、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導を系統的に行えるように努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	B 【達成状況】 教職員 86.5% 保護者 72.1% 児童 86.9% ・社会科、宇都宮学の副読本やインターネットで調べ学習をする活動を通して、身近な地域や宇都宮の良さに気付くことができた。 ・身近な地域、宇都宮の良さに気付かせる教師の働きかけが引き続き必要である。 【次年度の方針】 ・遠足や校外学習を通して、宇都宮の良さや特産物等について、興味・関心を高められるようにする。 ・社会科や生活科、総合的な学習（宇都宮学）、道徳を中心に、自分の住んでいるところの良さを意識付ける。

A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童 85%	①児童が情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ②辞典の使い方や図書資料での調べ方等について学校図書館司書を授業に活用し、図書室利用の充実を図る。 ③授業の中で1人1台端末の効果的活用を図るとともに、プログラミング教育の計画的な実践に努める。	B 【達成状況】 教職員 94.6% 保護者 82.3% 児童 95.2% ・Chromebookを授業で使用したり、長期休業の際には、AIドリル等を宿題に出すなどして、活用したりすることができた。 ・図書資料を学習に積極的に活用できた学年が多かった。 【次年度の方針】 ・授業でChromebookを活用している様子を、ホームページや学年便りで公開する。 ・発達段階に応じて、Chromebookを家庭学習でも活用できるようにする。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 教職員 85% 【再掲A2】	①人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ②総合的な学習の時間や学校行事・地域行事等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。	B 【達成状況】 教職員 97.3% 保護者 95.0% 地域住民 100% 児童 94.7% ・コロナの影響で、学校行事・地域行事等の地域の方や高齢者と交流する機会が少なかった。そういった状況の中でも登下校を見守ってくださっている方々への感謝の気持ちを伝える感謝の会や、朝の読み聞かせボランティアの方を招くなど、限られた活動の中で、児童は、親近感や感謝の気持ちをもつことができた。 【次年度の方針】 ・学校行事等を通して、児童が地域の方や高齢者と交流する機会を設けていきたい。また、地域の方や高齢者との交流を通じて、地域と関わる姿勢や他人を思いやる気持ちを育てていく。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童 85%	①環境教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②過去の災害の具体事例を伝える活動や避難訓練などを通して、防災意識を高め、防災教育を充実する。	B 【達成状況】 教職員 59.5% 児童 92.4% ・植物の世話やごみの分別等をして、環境に対する意識を高める指導をした。しかし、感染症の影響で、できる範囲での実施となった。 ・竜巻訓練で過去の災害の様子を写真で見せることで災害の恐ろしさを事前に伝え、真剣に取り組むことができた。また、引き渡し訓練は実施できなかったが、地震火災の防災訓練を実施し、避難経路等を確認した。 【次年度の方針】 ・引き続き、清掃活動や自然と触れ合う活動を通して、環境問題に対する意識を高めていく。 ・コロナ禍でもできる範囲で、より実践的な防災訓練を継続する。
B1 児童は交通ルールを守って安全に登下校している。 【数値指標】 地域 85%	①地域・保護者・教職員が登下校指導を一体となって、月1回集団下校を実施する。その際、地区担当教員が登下校の様子を聞き、必要に応じて指導したり、一緒に下校したりして安全な登下校ができるようにする。 ②警察スクールサポーター、スクールガードチーフ等の協力を得て、交通安全教室を計画的・継続的に実施することで、自他の安全を守り、実践的な理解が深められるようにする。	B 【達成状況】 教職員 97.3% 保護者 90.1% 地域住民 100% 児童 96.7% ・登下校の安全やルールについて、共通理解を確実にし、困っていること等を担当地区教員と共に解決する時間を定期的に設定することで、安全への意識が高まった。 ・感染症の影響で、交通安全教室はDVDによる指導になってしまったが、環境点検を実施するなど継続的に学校全体で交通安全に関する指導を行った。 【次年度の方針】 ・各学年学級で、継続的に安全指導を行い、地域とも連携しながら取組を推進する。 ・感染症の状況を見ながらではあるが、来年度は、より実践的な理解が深められるように努める。

	B 2 児童は学校や地域のために積極的に働いている。 【数値指標】 児童 85%	①係活動や委員会活動、毎日の縦割り班清掃にめあてをもって取り組めるようにする。 ②校外の清掃活動として、なかよし通りや中央公園の「クリーン活動」を実施し、人のために働く喜びや地域への愛着を高められるようにする。 ③保護者とともに、愛校の日の清掃活動を実施し、学校を大切にしようとする心を育てる。	B 【達成状況】 教職員 89.2% 保護者 75.2% 地域住民 100% 児童 88.2% ・学校のためにという自覚をもって、清掃や委員会活動に取り組む児童が多かった。 ・清掃強化週間では、教職員に周知を図るとともに、放送で児童に声掛けをしたことで、児童がより一層清掃活動に取り組む姿が見られた。 ・新型コロナウイルス感染症のため、クリーン活動等の清掃活動の実施ができないなど、活躍が限られてしまった児童の肯定的回答率が下がったと考えられる。 【次年度の方針】 ・児童一人一人が活動の意義を理解し、めあてをもって取り組めるように、教員が十分に指導支援に努める。
目 指 す 学 校 の 姿	A 13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員 85%	①教育相談や個人懇談等を計画的に実施し、一人一人のニーズや実態を踏まえた支援に努める。 ②他学級との授業交換や学年合同活動を行い、広く児童理解・学業指導に努め、児童が教師及び児童相互の信頼関係を深めながら、学校生活が送れるようにする。	B 【達成状況】 教職員 97.3% ・今年度も一人一人の児童理解や、年2回の教育相談を通して児童が安心感や満足感を得ることができ、教職員と児童の信頼関係の構築の向上につながった。 ・学年会やケース会議等を通して、一人一人のニーズや実態を把握するとともに、デイジー教科書の導入や教科担任制を見据えた他学級との授業交換を行うことで、広く児童理解・学業指導に努めた。 【次年度の方針】 ・様々な教職員が一人一人の児童に関わり、より信頼関係を築くことができるよう、職員間の共通理解を図り、児童がより良い学校生活を送ることができるよう支援していく。
	A 14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童 85%	①確かな児童理解に基づいた、児童にとって居がいのある学級づくりや道徳の授業実践などを通していじめを許さない態度の育成を図り、いじめの起こらない環境づくりに努める。 ②学校生活アンケートや教育相談の実施、職員間で定期的な情報交換の場を確保することで児童や学級についての共通理解を図り、いじめの早期発見・早期対応に努める。また、いじめ等対策委員会を設置し、組織的な対応を図る。 ③携帯電話やメール等、情報モラル教育の強化に努めるとともに、「いじめゼロ強調月間」における取組や「宮っ子心の教育」に係る児童会主体の活動の充実を図り、保護者にも学年だよりなどを通じて啓発を行う。	B 【達成状況】 教職員 100% 保護者 83.8% 地域住民 100% 児童 98.1% ・日々のかかわりや教育相談、定期的なアンケートの実施を通して、児童の実態把握に十分に努めることができた。また、結果を職員間で共有し、支援や指導に取り組んだ。 ・学級での日常的な指導や道徳科の授業、「いじめゼロ標語」の作成や児童会による呼びかけなどの取組を通して、「いじめはいけないことである」という児童の意識が高まった。 【次年度の方針】 ・次年度も全校体制で継続して取り組んでいくとともに、各種便りや授業参観での道徳の授業公開を通じて、学校での取組を保護者にも知らせる機会を増やすように努める。

	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童 85%	①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに認め励ます指導を行い、居がいのある学級経営に努める。 ②教育相談、Q U調査、定期的な校内アンケート等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と、校内全体での情報共有を図る。	B	【達成状況】 教職員 100% 保護者 93.2% 児童 98.1% - 児童にとって安心感と居がいのある学級経営に努めた。また、教育相談や定期的なアンケートを通じて児童の実態把握に努め、児童の悩みに迅速に対応した。 - 不登校の兆しを早期発見し、適切な支援を行うことができるよう、学年会やケース会議を実施し、校内全体で対応した。また、必要に応じてスクールカウンセラーや外部機関とも連携を図り、組織的に対応できた。 【次年度の方針】 - 引き続き、学級・学年でのレクリエーション活動や児童会活動を通し、児童が喜びや達成感を味わえる場を設定したり、児童相互で認め合ったりする機会を多く設ける。 - 児童にとって、所属感や連帯感を感じられる居心地のよい学級・学校づくりに努めるとともに、不登校や不適応傾向の児童の早期発見や適切な支援、すみやかな情報共有を徹底する。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員 85% 【再掲A13】	①外国人児童の実態や家庭環境に応じた日本語指導教師の活用を行うなど、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。	B	【達成状況】 教職員 100% - 日本語指導教師との連携を図りながら、外国籍児童に適切な支援ができた。 - 適切な支援により自信をもって学校生活を送ることができている。 【次年度の方針】 - 引き続き継続して取り組むとともに、安心して学校生活が送れるような支援を行っていく。 - 道徳や人権教育の視点から、国際理解・互いの国籍や文化の違い等を認め合い、尊重しながら生活できるよう、啓発していく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 保護者 85%	①学校行事等において、児童が主体的に活動する場を工夫して設定し、活気あふれる学校づくりをする。 ②誰もが居場所を確保できる学級経営に努める。 ③授業では、学習意欲を高める多様な体験的学習の工夫をする。 ④縦割り班活動や学年活動、及び日常的な交流活動を工夫して可能な限り実施し、児童が意欲をもって活動できる場を設定する。	B	【達成状況】 教職員 94.6% 保護者 94.4% 地域住民 100% 児童 95.2% - コロナ禍の影響はあったが、学校行事や縦割り班活動、多様な体験的学習を工夫して行い、学習効果を高めるよう努めた。 【次年度の方針】 - 状況の変化に対応しながら、発達段階に応じた体験的な学習の場を取り入れたり、児童が主体的に活動できる場を設定したりしていく。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童 85%	①『はっきり』『じっくり』『すっきり』という指導過程の授業を展開し、教材研究に努めるなどして分かる授業の充実を図る。 ②個・学級・学年の実態を把握するとともに、上学年生以上の算数でT Tや少人数指導など、学習形態の工夫を図り、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ③教員の指導力の向上を目指し、研究授業や授業後の研究会及び、実技研修等を実施して、校内研修の充実を図る。 ④各学年の発達段階に応じて宿題の出し方を工夫したり、「家庭学習のすすめ」を家庭に配付したりして、保護者の協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。	B	【達成状況】 教職員 97.3% 保護者 88.7% 児童 98.4% ・高学年で教科担任制を取り入れることで、専門性を生かした授業を行うことができた。 ・上学年以上の算数で、T Tや少人数指導を取り入れ、個に応じた指導を行ってきた。 ・教職員は、1人1研究授業を行い、指導力の向上に努めることができた。 ・家庭学習強化週間（2回）の実施により、家庭学習の習慣化、周知を図った。家庭学習時間や自主学習の意識が高まり、意欲的に取り組んでいた。 【次年度の方針】 ・「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の内容が充実するよう指導する。 ・分かる授業の充実を図るために校内研修の充実を図り、教員の指導力の向上に努める。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 85%	①互いを認め合い、いたわり合い、補い合い、励まし合い、高め合う教職員を目指し、課題への対応や行事の運営等に、一丸となって取り組むよう努める。 ②学校スタッフの職務に応じた指導計画・実施計画の立案に努め、役割を明確にした組織運営に努める。 ③それぞれの強みを生かした校務処理ができるよう、学年・ブロックなどチームとして協力して校務に取り組む。	B	【達成状況】 教職員 86.5% ・職員会議や打ち合わせ等を活用し、課題の共通理解を図り、管理職のみならず教職員全体の意見も取り入れながら課題に対応できた。また、課題を担当教員が一人で抱え込むことなく、それぞれの教職員の知識等を生かし、互いに補い合いながらより効果的な対応ができた。 【次年度の方針】 ・今まで通り学校の課題を学校全体で取り組むとともに、そのために、情報共有を密にしていく。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 85%	①学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ②教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ③学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	A	【達成状況】 教職員 56.8% ・今年度も、昨年度に引き続き、コロナ感染対策として、消毒作業・3密回避のための指導の徹底・休み時間の対応を行ったり、学校行事等が変更になったり、業務時間の増加につながった。また、日々のコロナ対策を行うなか、各種行事等が再開され、教職員の出張も増えたことにより、負担感が増す結果となった。 【次年度の方針】 ・今年度の業務改善の方策を継続しつつ、日課を見直し、ICTを効果的に活用するなどして、教育活動の質を落とさず効果的な業務改善に努めることにより、教職員の負担軽減を図る。 ・今年度の経験を踏まえて、さらに行事の精選・見直しを行っていく。また、教職員の業務に対する意識改革にも取り組んでいく。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 教職員 85%	①小中一貫のカリキュラムに則った教育課程に従って、小・中の学びのつながりを意識して指導にあたる。 ②小中合同の取組を行う。(挨拶運動、サーキット運動、お弁当の日や共通献立の実施、食育だよりや学校園図書だよりの発行等) ③全校一斉の進学先中学校訪問により進学への不安解消や希望・期待感を高める。	B 【達成状況】 教職員 81.1% 保護者 69.5% 地域住民 83.3% 児童生徒 93.2% ・小中一貫のカリキュラムに則った教育課程に従い、小中の学びのつながりを意識しながら実践したが、数値目標に達しなかった。 ・小中合同の取り組みとして、挨拶運動を実施した。 ・昨年と同様、学校園図書だより、宮・MIYA・文庫、中学校の図書委員が書いたおすすめの本の紹介など小中合同の取組を実践した。 ・食育だよりをはじめ、共通献立や小中学校同日のお弁当の日を実施した。 ・全校一斉に進学先中学校訪問をすることで、進学への希望や期待感を高めることができた。 【次年度の方針】 ・今後とも小中連携を図り 9 年間を見通した計画を検討するとともに、保護者や地域住民へ取組内容等を学校 HP 等を利用して発信する。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 保護者 85% A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 保護者 85% 【再掲 A22】	①地域協議会等と連携を図り、新たな地域人材の募集などを行いながら、学校支援ボランティア（地域探検の補助や学習支援ボランティア等）を活用した授業を計画的・継続的に実施する。 ②地域にある県立博物館・中央公園・市立図書館・文化会館・气象台等の文化施設を積極的に授業に活用する。 ③<u>企業等との連携を図った体験型学習を積極的に実施する。</u> ④取組の内容について周知に努める。	B 【達成状況】 教職員 97.3% 保護者 86.2% 地域住民 100% 児童生徒 93.5% ・地域協議会等と連携を図り、新たな地域人材の募集などを行いながら、ミシンボランティアや読書ボランティア等、地域の教育力を活用した授業を実施した。 ・コロナの影響を受けながらも、状況により可能な範囲で授業に活用した。 ・ふれあい文化教室・社会福祉協議会による点字及び手話教室、日産のオンライン工場の出前講座や地域の県立博物館・中央公園等を活用し、体験的学習を実施した。 ・特色を生かした教育活動を実施したときには、学年だよりや学校ホームページで周知を図るようにした。 【次年度の方針】 ・引き続き、地域人材や教材、学習支援ボランティアを有効活用した授業を計画的・継続的に行う。 ・取組の内容について周知を図る際に、写真と共に活動内容や成果などのコメントも入れるようにする。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員 85%	①日常的に校内巡視を行うと共に定期的な安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。また、コロナウイルス感染症対策として、学校生活全体を通して保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 教職員 91.9% 保護者 92.2% 地域住民 100% ・定期的な安全点検により、危険箇所を把握し、速やかな修繕に努めた。 ・感染症の影響で、実践的な内容は少なくなりましたが、確実に避難訓練を実施し、備えを万全にした。 ・感染症の蔓延防止に向けて、SSS の協力も得て消毒作業を行うとともに、新しい生活様式の推進に努めた。 ・マスクの着用・手洗い・消毒・換気・体温チェックカードの提出など、予防の呼びかけと知識の共通理解に努めた。 ・WBGT の指数を全校に分かるように掲示し、熱中症対策に努めた。 【次年度の方針】 ・ミライムや保健だより等を活用して教職員が共通理解を図り、感染症予防に関する指導や環境づくりをより一層進めていく。 ・毎月の安全点検を確実に行之い、機動班等と連携しながら迅速な対応を進める。

本校の特色・課題等	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 教職員 85% 【再掲A10】	①各クラスで活用できるようICT機器の充実を図るとともに、ICT支援員と連携し、1人1台端末の効果的な活用について校内で研修を行う等、ICT機器活用における環境整備に努める。 ②各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。	B	【達成状況】 教職員 100% 保護者 82.3% 児童 95.2% ・ICT支援員と連携して、教材の準備をすることができた。 ・図書館司書を中心に、図書室の整備を進めている。 ・学習に必要な蔵書を増やしたり、市立図書館の学校希望図書を活用したりできた。 【次年度の方針】 ・Chromebookの効果的な活用方法を研修したり、実践した内容について報告し合ったりする。 ・国語の教科書で紹介されている参考図書を、計画的に購入していく。 ・学年ごとのおすすめ本等を活用し、学年の発達段階に応じた本を読めるように呼び掛けていく。
	B3 学校・保護者・地域が一体となって、読書活動の充実に努めている。 【数値指標】 児童 85%	①クラスごとに落ち着いた雰囲気での読書を週2回、行うとともに、図書室利用の時間の活用を工夫する。 ②各学年オープンスペースに読書コーナーを設置したり、おすすめの本を奨励したりし、読書に親しめる環境を作る。 ③図書委員や教職員による読み聞かせを月1回程度実施する。 ④長期休業中には、親子読書を実施し、読書活動への関心を高めるとともに、読書カードを掲示して、様々な本に興味をもたせる。	B	【達成状況】 教職員 97.3% 保護者 96.1% 地域住民 100% 児童 68.5% ・コロナ禍の為、ボランティアによる読み聞かせが10月からしか実施できなかった。 ・中央図書館のお話キャラバンを実施し、様々な本に興味をもつことができた。 【次年度の方針】 ・中央図書館や読み聞かせボランティアと連携をし、読書活動を充実させる。
	B4 教職員は、ほめて伸ばす指導に努めている 【数値指標】 児童 85%	①長所を伸展させるという視点に立ち、児童のよさや得意なことを見つけ、それをほめて伸ばす指導を行う。 ②「まごころカード」を活用し、児童のよさや頑張りを積極的に称賛するとともに、豊かな心を育てる小さな親切運動の推進を図る。 ③学校生活における児童の頑張りの活躍を認め、賞賛する表彰制度を行ったり、ホームページや各種たより等を利用したりして家庭や地域に知らせる。	B	【達成状況】 教職員 97.3% 保護 92.0% 地域住民 100% 児童 95.9% ・全職員が共通の認識のもと「ほめて伸ばす指導」に取り組むように努めた。 ・日々の関わりから児童の実態やニーズを教職員が把握し、児童のよさや頑張りを十分に称賛してきた。 ・「まごころカード」などを通じて児童が友達のよさに目を向け、認め合えるよう支援してきた 【次年度の方針】 ・本校の特色である、児童の良さを認め称賛し、自己肯定感を高める指導を継続していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 教育活動全体状況
・全体アンケートでは、指標を達成できた項目は29項目中26項目であった。 ・市全体の小学校の結果と比較すると、児童の肯定回答率はすべての項目で、保護者については、「家庭・地域・企業との連携協力」「小中一貫・地域学校園の取り組み」「ICTの活用」の3つが、市の平均を下回った。地域住民については、「小中一貫・地域学校園の取り組み」で市の平均を下回っている結果であった。 ・教職員の回答では、「ICTや図書の活用」「持続可能な社会」についての項目で低い傾向がみられる。このことから、教職員は高い目標をもって児童の指導に熱心に取り組んでいる姿が伺える。また、業務の効率化については昨年度に引き続き、市の平均より20ポイント以上低い結果であり、実効性のある解決策を検討する必要がある。
2 学校運営の状況
・A17「学校は活気があり、明るく生き生きとした雰囲気がある」の項目は、すべての評価対象で90%を超えており、地域協議委員は100%の肯定回答率であった。ただし、市の平均と比べると、3ポイント下回ってしまった。コロナの影響で様々な活動に制限があり、児童や保護者の肯定回答が少し落ちたことが考えられる。引き続き、縦割り班活動や学年行事等

において、一人一人が生き生きと活動できるような場を工夫して設定していきたい。

・A20「教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」については、日課表や業務の改善を行ってきたが、来年度に向けての一番の課題として、今後もさらに検討していく必要がある。

・A22は今年度も保護者の肯定回答率が市の平均を下回ったところである。地域の文化祭も縮小ながら実施したことで昨年度よりは上昇したが、コロナの影響で十分な活動ができなかった。今後も状況を見ながら、地域協議会の学校教育支援部会と連携し、各種ボランティア等を活用した学習や地域の文化施設を積極的に活用した授業を、計画的・継続的に実施していく。

3 教育活動の状況

①生活

・あいさつ・いじめ・不登校・規範意識・思いやりなど各項目で達成状況を見ると、対象者の平均で9割が肯定的な回答をしている。

・A4「あいさつ」に関する肯定的回答率は、教職員・地域・児童とも90%以上である。保護者は87.8%であるが、R1年度83.8%とR2年度84.0% R3年度87.7%と肯定的回答率は高くなってきている。校内の児童の様子を見るとあいさつの習慣は、どの学年の児童もよく身に付いている。ただ、登下校時の学校外では十分とは言えない場面もあるため、今後も地域や家庭と連携を取りながら、児童が誰に対しても気持ちのよいあいさつができるよう指導を継続していきたい。

・A3「規範意識」に関する肯定的回答率も、教職員・保護者・地域・児童とも90%以上である。これは市の平均よりもいずれも高い値となっている。ルールやマナーの意味を理解し、ルールを守りながら自分のことも周りのことも大切にできる児童の育成に今後も全校体制で努めていきたい。そして、児童の頑張りやよさをよく見取り称賛することで、一人一人の児童が学校生活の中で意欲や自己有用感を高められるよう取り組んでいきたい。

・A14「いじめが許されない行為であることの指導」に関する肯定的回答は、教職員や地域住民は100%、児童は98.0%と高い達成状況である。保護者の肯定回答率は、83.8%と市の平均は上回っているものの、各種便りや授業参観で学校での取り組みを啓発するとともに、今後も全教職員で一人一人の児童理解に努め、学校全体の組織的ないじめ対策を推進し、いじめ撲滅に向け徹底した取り組みを行いたい。

②健康・体力

・A6「健康や安全」に関する肯定的回答率は、教職員・保護者・地域・児童全てにおいて94~100%で、市の平均よりも、いずれも上回っている。コロナ禍で、3密回避の点から校庭の使用が制限されているにもかかわらず、外遊びの奨励や工夫した教科体育を実践してきた結果が表れている。また、「安全に・衛生的に」の共通理解を徹底した。給食の配膳の仕方や会食の方法も徹底され、安全に・衛生的に給食の時間を過ごす意識が高まっている。また、安全・防災教育では、今年度は実践的な訓練が概ね行えた。今後も、登下校時の安全指導や防災訓練を各団体と連携して取り組んでいく。

③学力

・A1「児童の授業に対する主体的な取組」、A18「分かりやすいきめ細やかな指導」で、保護者・児童とも市の平均よりも大幅に上回っている。TTや少人数指導、家庭学習強化週間の実施、校内研修の充実等の成果や授業におけるねらいを明確化、課題提示の工夫、ねらいに即した振り返りの実施等により、学習内容の定着、学力向上が図られた。

・A8「英語を使つてのコミュニケーション」で、児童の評価が95.9%と市の平均を約6%上回った。専科教員とALTによる授業により外国語に関する意欲が十分に育っていると思われる。

・A9「宇都宮の良さ」については、児童の評価が86.9%で指標を上回ったものの、保護者の肯定回答割合も72.1%と低いため、今後も学校での取り組みを学年だよりやHP等で発信するとともに、児童へ社会科や生活科、総合的な学習（宇都宮学）、道徳を中心に、自分の住んでいるところの良さを意識付ける活動等、より一層努めていきたい。

・A10「ICT機器や図書等の整備・活用」で、児童の評価は95.2%となり、昨年度よりわずかに上回った。保護者は昨年度に比べ約2%下回り、端末の持ち運びについて課題を感じている方も少なくない。Chromebookの活用も定着してきたが、授業や家庭学習において積極的に活用する一方、使い方のルール等を再度確認する必要がある。学習において学校図書館は、意欲的に活用する児童が多かったと考えられるが、読書活動については、今後も充実を図っていく必要がある（④で再掲）。

④本校の特色

・B1「安全な登下校」については、地域住民の評価は昨年度に引き続き100%であった。教職員・保護者・児童も90%以上の肯定的回答の割合であった。児童には、安全を意識して登下校しなければならないと考えている様子が伺える。今後も学年下校や集団下校において安全指導を継続し、地域各団体やPTAと連携しながら安全指導に取り組んでいく。

・B2「地域や学校のために積極的に働く」の児童の評価は88.2%で昨年度よりも下回った。学校での係や当番活動では概ねよく働く姿が見られるが、今年度も親子での奉仕活動等、コロナによる活動制限が結果に表れたと考える。

- ・ B 3 「読書活動の充実」については、教師・保護者・地域すべて肯定回答率 90%以上と高かったが、児童の肯定回答割合が 68.5%と全項目の中でも一番低くなってしまった。児童の様子から読書への関心は高く、ボランティアや貸し出しの制限が低くなった要因とも考えられる。図書室の活用や朝の読書タイム、読み聞かせ、お話会、学校図書館司書の活用や調べ学習などを通して本の有効活用をさらに進めていく。
- ・ B 4 「ほめて伸ばす指導」についての児童の評価は 95.9%，保護者評価も 92.0%で、目標の指標は達成できた。また、地域の方からは訪問授業の際にお褒めの言葉をいただいた項目で、100%であった。教職員の児童に寄り添う指導が伝わっていると思われるが、今後とも、まごころカードや帰りの会での称賛、良さを認めた言葉かけなど、児童を認め励まし、自己有用感や自己肯定感の育成を目指す指導に努めていく。

7

学校関係者評価

- ・ 概ねよい結果が残せたと思う。児童、学校、保護者、地域の皆様の日頃の活動の表れだと思われる。今後の活躍を期待する。
- ・ 教職員の業務の効率化についての肯定回答率の低さは、働き方改革を達成できない教職員の厳しい判断によるものと思われる。常に業務に追われ子どもたちの為に取り組んでいる教職員の皆さんの姿に触れ感謝の気持ちでいっぱいである。
- ・ 評価項目 A4「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」や A5「児童は目標に向かって粘り強く取り組んでいる」において、教職員・児童生徒と保護者との数値に大きな開きがあるものがあるが、この数値の開きがないようにすることが、本来の姿であると思う。
- ・ 地域としても、保護者や学校と連携し、子供たちにとって、学校・地域とのつながりが感じられる活動を今後も取り組んでいきたい。
- ・ 今年度も工夫して取り組んだ授業参観や、放課後子ども教室で子供たちと接する機会があつてよかった。
- ・ 登下校時の見守りを通して、あいさつについては、年々本当に上手になっていると思う。日頃よりあいさつ運動に力を注いでいる学校での指導の効果であると感じた。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 今年度も目標とする指標を、おおむね達成できたので、次年度も各取組を継続することで、より確実に達成できることを目指していく。一方、昨年度から引き続き課題となった項目、「児童は宇都宮の良さを知っている」については、社会科や生活科、総合的な学習（宇都宮学）、道徳を中心に、自分の住んでいるところの良さを意識付けると共に、遠足や校外学習を通して、宇都宮の良さや特産物等について、興味・関心を高められるようにする。また、学習した内容を保護者へも発信するなど、改善に向け保護者や地域とも連携して活動の充実を図っていきたい。次に「学校は、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている」については、小中一貫教育のカリキュラムに則って、小中合同のあいさつ運動や学校園図書だより、学校園共通献立、全市一斉の中学校訪問などを実施したものの、コロナ禍で教職員間の十分な連携を図れなかった点や保護者への啓発が不十分であったことが考えられるので、来年度は各種たより等を通して取り組みを発信していきたい。
- ・ ご指摘のあった、教職員や児童と保護者との肯定割合に差があるものについて、例えば A4 の挨拶の項目については、児童があいさつの意義（いつでも、どこでも、だれにでも等）を十分に理解できるように、学級や学年を中心として、発達段階に応じた指導を継続し、あいさつの習慣が身に付くようにする。